

**土砂災害防止月間（6月1日～6月30日）**  
**～ 日頃の備え・早めの避難が重要です ～**

我が国は、急峻な山地や谷地、崖地が多く、地震や火山活動も活発である等の国土条件に加え、台風や豪雨に見舞われやすい気象条件であるため、土砂災害が発生しやすい環境にあり、平均で毎年約1,000件の土砂災害が発生しています。

平成23年は、東日本大震災や台風第12号を始め地震や豪雨などにより、全国各地で1,422件の土砂災害が発生し、72名の尊い人命が失われました。

特に、台風第12号により紀伊半島では、山間地を中心に深層崩壊や土石流が多発しており、避難の必要性を感じた時には道路が通行止めになっているなど、警戒避難体制のさらなる取り組みが必要となっています。

国土交通省と各都道府県では、昭和58年から毎年6月を「土砂災害防止月間」として、土砂災害の防止と被害の軽減を図るための各種活動を全国で実施しています。

**揖斐川上流域は土砂災害の潜在的リスクが高い地域**

揖斐川上流域は、濃尾断層をはじめとする多くの断層が走っており、荒廃地が多く非常に脆弱な地質を有する地域で、過去に河道閉塞をもたらす大規模崩壊が何度も発生しています。また、この地域の年平均降雨量は3,000mmを超える日本有数の多雨多雪地帯です。降った雨は標高1,300m前後から一気に50mくらいまで流下するV字谷を形成している急流河川で、河岸に集落が点在し、谷底に国道や鉄道が走る土砂災害に対して弱い生活基盤を形成している地域です。

最近においても、平成20年9月 下谷(しもたに)【揖斐川町東津汲(ひがしつくみ)】での土石流発生、平成22年1月 揖斐川町坂内川上での山腹崩壊と八草(はっそう)川の一部河道閉塞、平成23年8月 越波(おっぱ)谷【本巢市根尾越波】での土石流発生等、毎年のように土砂災害が発生しています。

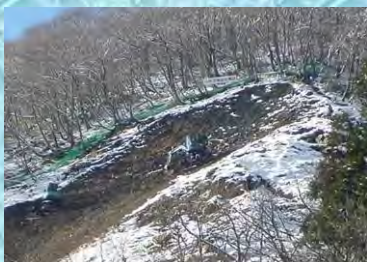
土砂災害防止月間を機に、もう一度、身近に潜む土砂災害の危険性について確認しましょう。



平成24年度土砂災害防止月間ポスター



平成20年9月 下谷で発生した土石流被害



平成22年1月 坂内川上地先で発生した山腹崩壊

**土石流**

**地すべり**

**がけ崩れ**

**土砂災害の主な前兆現象**

もし こんな現象を見たら・・・ 聞こえたら・・・  
 土砂災害の危険が迫っています！できるだけ早く周りの人と安全な場所に避難する共に、市役所、町役場など最寄の公的機関や越美山系砂防事務所（又は、最寄りの国土交通省の砂防事務所）に連絡をお願いします。

**【土石流】**

- ・ゴォーと山鳴りがする
- ・雨が降りつついているのに川の水が減っている
- ・川の水が急に濁ったり木が流れきた

**【地すべり】**

- ・地面にひび割れができる
- ・溪流や井戸の水が濁る
- ・斜面から水がふき出す

**【がけ崩れ】**

- ・がけに割れ目が見える
- ・がけから小石がぱらぱらと落ちくる
- ・がけから水が湧き出している
- ・がけから木の根がブチブチと切れる音がある

# 砂防工事現場の土石流警戒対策

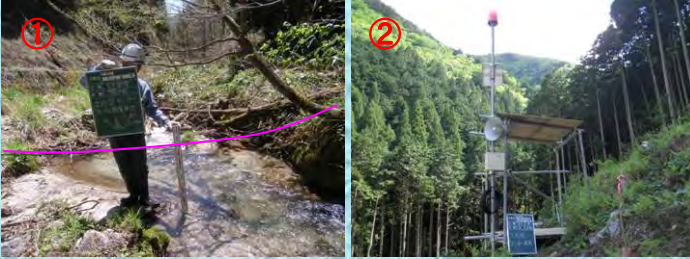
平成7年7月の梅雨前線豪雨による土石流の発生で大量の土砂が流出し、国道148号新国界橋の流失等の被害が発生した姫川水系の蒲原(がまはら)沢【左岸側:新潟県糸魚川市、右岸側:長野県北安曇郡小谷村】において、平成8年12月6日午前10時30分頃新たに土石流が発生し、平成7年の土石流に伴う治山工事、砂防工事、橋梁復旧工事に従事していた作業員が押し流され、死者14名(うち女性3名)、負傷者8名を出すという痛ましい事故が発生しました。

この事故を契機に、砂防工事の現場では二度と作業員等が土石流等の被害に遭わないようにするため、様々な警戒避難対策が取られています。管内の工事現場で取り組まれている事例を紹介します。

## 土石流の発生を観測し避難する

工事中に突然土石流が発生したときにいち早く避難するため、土石流の発生を感知し避難のための警報を鳴らす装置を設置しています。

(写真①)は工事現場の上流に土石流の発生を感知する土石流センサーを設置しています。土石流が発生し土石流センサーが切断されると、工事現場付近に設置した警報装置(写真②)で警報音と赤色灯の聴覚・視覚の両方で土石流の発生を知らせます。



また、少しでも早く高台に避難するための昇降階段(写真③)の設置や避難を誘導するための避難路の指示看板を設置しています。

確実に避難できるようにするためには、日頃からの訓練や作業員の心構えが必要です。いざという特、すばやく避難できるように、工事現場では避難訓練(写真④)の実施や作業員への安全教育が定期的に行われています。



## 揖斐川流域クリーン大作戦に参加

5月27日に開催された“2012 揖斐川流域クリーン大作戦”に事務所職員もボランティア参加しました。また、各工事現場の技術者や作業員も最寄りの会場にて参加しました。

今回参加してタバコの吸い殻の多さにはビックリしました。日頃よりゴミのポイ捨てをしないよう心がけたいものです。



## 降雨量等を観測し危険を察知する

土石流が発生してから避難するだけでなく、工事現場で雨量計(写真⑦)を設置して、降り始めからの雨量や雨量強度を観測し、一定の雨量を観測した場合は工事を中止しています。

また、特殊な事例としては、瀬戸谷の現場へ向かう林道の斜面では地すべりが発生する危険性があります。工事用車両等が地すべりに巻き込まれないために注意看板を設置するとともに、地すべりの動きを観測するための伸縮計(写真⑥)を設置して警戒にあたっています。



各現場では、土砂災害の被害に巻き込まれないよう工夫しながら工事を進めています。

## 管内市町と事業調整会議を開催

事業調整会議は、円滑な事業推進を目的とし、年度当初に管内市町(本巣市・揖斐川町)との間で実施しています。

本年度より新たな試みとして、本巣市(5月14日)、揖斐川町(5月25日)と個別に会議を実施しました。藤原市長や宗宮町長も出席されるなか活発な意見交換が行われ、それぞれの個別課題について調整すると共に、事業や防災に関する情報の共有化が図られました。

今回の会議を通じて今後の円滑な事業進捗が期待されます。



会議風景(揖斐川町)



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。

発行 国土交通省中部地方整備局  
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所  
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3  
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626  
E-mail: ibigawa-sabo@beach.ocn.ne.jp